

2012 平和のための 戦争展・小平

戦争のない世界をめざして

日時 7月26日(木)~29日(日)
午前10時~午後7時
(最終日は午後5時まで)
場所 小平市 中央公民館
ギャラリー

特 別 企 画

7月28日(土)午後1時30分~ 講演会

中央公民館 地下和室

講演

「原発と放射能 内部被ばくを避けるために」

川根 眞也 氏

(内部被ばくを考える市民研究会代表)

5月6日未明、42年ぶりにすべての原発が停止しました。東京電力福島第一発電所の事故を二度と繰り返したくないという市民の勝利です。

東京電力福島第一原発からは今でも毎日1000万ベクレルの放射性セシウムが大気中に放出されています。事故はまったく収束していません。

ここ東京で危険なのは外部被ばくよりも内部被ばくです。内部被ばくの危険について学び、私たちと私たちにつながる世代の健康を守りましょう。

7月29日(日)午後1時30分~ 文化行事

中央公民館 2Fホール

講演

「東京大空襲を語る」

橋本 代志子 氏

(千葉県船橋市在住の主婦)

1945年3月10日のアメリカ軍による東京大空襲で、父母と妹を失った。橋本さんは川に飛び込み、1歳3ヶ月の長男と共に助かった。

戦後長い間、戦争のことを口にすることはなかった。「父と母、妹を無理やりにも川に飛び込ませれば良かった」と悔やみ、自分を責めていた。

しかし今は「体験を伝えないと父母や妹に怒られるような気がしているんです。二度と戦争が起こらないようにしなさいって」と語る。

橋本さんは「東京大空襲・戦災資料センター」を舞台に、語り部として、孫やひ孫のような若者たちに戦争体験を語り続けている。

インタビュー映像

(2011年10月13日)

福島原発で何が起きているのか その5

「フクシマの現実と責任」

小出 裕章 氏 (京都大学原子炉実験所)

製作 森の映画社(5分) 監督 藤本幸久

専門は放射線計測、原子力安全。伊方原発裁判、人形峠のウラン残土問題、JCO臨界事故などで放射線で被害を受ける住民の側に立って活動。原子力の専門家でありながら、そのリスクや問題点についての研究活動に精力的に取り組んできた。3月11日の地震以降福島原発について昼夜を分かたず奮闘し続けている。

著書:「放射能汚染の現実を超えて原子力と共存できるのか」「環境と人間」「人間と放射能」

主催 2012 平和のための戦争展・小平 実行委員会
後援 小平市・小平市教育委員会
連絡先 090-5570-7221